

ココロ踊る！山麓生活のススメ(第17回)

庭の畑の小さな世界

2022.08.19

朝はちょっと早起きをして、家庭菜園で育てている野菜を見て回るのが日課になっている。7月下旬の今はトマト、きゅうり、ナス、ズッキーニなどの夏野菜が採れはじめ、日ごとにグングン大きくなる実を観察するのが楽しい。その畑には野菜を食べに来る昆虫がたくさんいて、さらにそれを食べる虫や小動物がいる。小さな畑で繰り広げられる半自然の世界を観察してみた。



サツマイモ、モロヘイヤ、キャベツ、大豆、きゅうりなどを混植している家の畑

野菜作りは虫との攻防戦

庭の一角につくった畑は、2歳になった息子・ガクの格好の遊び場になっている。ガクはトマトが大好きで、毎日、保育園から帰ってくると一目散に畑へ行き、色づいたトマトを探す。赤くなり始めた実を見つけると、手で摘み取って「きれい、きれい」と言いながら、着ているTシャツでこすって、形だけ汚れを落とし、そのままパクリ。そして「すっぱいね〜！」と感想をひとつ。あと2、3日すれば完熟して甘くなるのに、待てないのだから仕方がない。でも、2歳にして収穫の楽しさや、それを味わう喜びを知っているのは、ぜいたくなのかもしれない。

ガクはこんな調子で畑の野菜を洗わずに口に入れてしまうので、ここでは農薬を使わないようにしている。だから、野菜作りは虫との攻防戦でもある。「攻防」とはとっても、こちらはひたすら防御をするしか知識がなく、できることは虫よけネットをかけたり、虫が嫌がるという調味料(酢に唐辛子やニンニクを漬けたもの)を薄めたりしてスプレーするぐらい。その効果は限定的で、当然、畑にはたくさんの虫がすんでいる。

シソの葉をバッタが食べたり、ニジユウヤホシテントウ(28もの黒斑をもつテントウムシの仲間)がきゅうりの皮をかじったり、キャベツにモンシロチョウが卵を産んだり……。自分たちが食べるためではなく、虫を養うために野菜を育てているのではないかと笑われそう。

作物の警備隊… 続きを読む